

2023 年 12 月 26 日

合同部会 趣意書

1. 目的と内容

2019 年から本格化した COVID-19 の世界的な影響は、多国籍企業の活動に大きな影響を及ぼし続けている。現在、世界的な人の流れも 2019 年以前の水準にまで回復し、世界的に経済活動が再起の兆しを見せている。ただし COVID-19 以前と以後でその様相は大きく異なる。本部会の目的は、エンデミック期における多国籍企業の現状と課題、そして学術研究の果たす役割について会員と議論を深める事にある。企業の国際的な活動について検証を重ねる両学会にとって、会員同士の知見を交わらせながら新しい多国籍企業の姿を考える事は非常に有益である。

本部会では主に次の 3 点について検討をしたい。第一に地政学リスクである。今回は COVID-19 による影響を考慮するものの、他にも金融危機や経済的衝突、内紛・戦争等といった様に様々な地政学リスクが存在している。これまでに人類が経験した地政学上の問題と COVID-19 による影響について一般化できる部分と、そうでない部分を峻別する必要がある。第二にサプライチェーンである。特にモノの流通に大きな打撃を与え国際的に展開されているサプライチェーンが分断されてしまったが、強い競争力を持つ多国籍企業は状況の変化に合わせてサプライチェーンを回復させたり、仕組み自体を進化させたり工夫している。このような企業の取り組みについて、これまで学会で蓄積してきた知見を踏まえるとどの様に捉えられるのかについて整理する必要がある。第三に人的資源管理である。モノだけでなく、ヒトの流れの変化も多国籍企業の新動向を考慮する上では欠かせない要素である。特にどのような人材を育成し、変動性の極めて高い世の中に供給していく事が必要なのかについても、新しい考え方や整理が必要になるだろう。

上記 3 点を踏まえ、本部会では「エンデミックと多国籍企業」というテーマを掲げ、多国籍企業の新しい兆しについて捉える機会としたい。今回は両学会からそれぞれ、計 2 名の報告者にご登壇頂く。新しい兆しを捉え、整理するという本部会の趣旨から、今回は精緻な研究報告というよりは、敢えて現状の動向を踏まえた論点の整理を主眼としてご報告頂き会員間での議論の種を提示して頂く予定である。

2. 報告者と題目

■日程：2024 年 1 月 20 日（土）

■時間：15：00～17：20

■開催場所：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー1155 教室（Zoom によるハイブリッド開催）

■プログラム概要 ◇部会開始/開会の挨拶 15：00～

15:05～16:05

◇第 1 報告（報告 30 分+質疑応答 30 分程度）

報告者：新宅純二郎（東京大学経済学部教授）

報告題目：「グローバル化がもたらしたサプライチェーンマネジメントの課題」

16:20～17:20

◇第 2 報告（報告 30 分+質疑応答 30 分程度）

報告者：山口隆英（兵庫県立大学国際商経学部教授）

報告題目：「グローバル人材の供給源としての大学の課題と展望」